

令和8年度 第1回「くまもとで働こう」推進本部 議事概要

日時：令和8年（2026年）6月25日（木）9時30分～10時30分

場所：知事応接室

1 開会

【進行：商工政策課 大瀬課長補佐】

令和8年度第1回「くまもとで働こう」推進本部会議を開催いたします。司会進行を務めます、商工政策課の大瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日出席予定の竹内副知事におかれては、急用でご欠席となっております。また、商工労働部の上田部長も、篠田総括審議員の代理出席ということになってございます。

それでは、お手元の次第に沿って進行いたします。まず開会にあたり、推進本部長である木村知事からご挨拶いただきます。

2 挨拶

【木村知事】

県内の豪雨、東北の地震と心配事が続いておりますけれども、地震の方は政府が動いておりますし、豪雨についても、警戒本部を立ち上げて肅々と対応しておりますので、その中で、今年度第1回の「くまもとで働こう」推進本部会議をしっかりとやっていきましょう。

今回、熊本県の人材確保・育成に関する課題をしっかりと抽出していかなければいけません。令和6年8月にこの「くまもとで働こう」推進本部を立ち上げました。県内定着、人材育成、生産性向上、働きやすい職場環境づくりという大きく4つのテーマを掲げて、県庁一丸となって取り組んできたところです。昨年かなり企業などでの好事例がありまして、今回しっかりと皆さんからご報告いただくと思っています。その上で、天草、人吉・球磨、それぞれの地域に根差した取組みをさらに推進していこうということになりました。また、去年は賃上げについての課題もありましたので、熊本労働局長にもお越しいただいて、熊本労働局の取組みを伺い、県と熊本労働局が連携してやっていくことを確認しました。

今年度どうしようかということについて申し上げますと、おそらく後程資料でお話がありますが、まだまだ事態は改善していないというところがあり、県内の人材不足、人手不足感は全然緩和していないといえると思います。ただ一方で、成功した4つの好事例を発表してもらおうと思っています。それぞれの好事例について、直面した課題への対応策におけるプロセスにスポットを当てて発表いただきます。ぜひその好事例を各部私事として考えてみてください。そうして様々な改善を重ねないと、今の状況は改善していかないと思います。

令和7年の国勢調査の速報値では、東京への一極集中がまた進みつづいているとい

うことが明確に浮き彫りになっておりますし、熊本は人口減少が非常に厳しい実態だと思っております。そうした今だからこそ、生産性を高め、働き方改革をしていく中で、上手に県内の働きたいと思う皆様をフル活用して産業人材を確保していきたいということで、この本部の意義はますます深まっていくと思います。

今日は皆さんから現状をしっかりとご報告いただき、今年度取り組めることからしっかりと取り組んでいくということを、この場で確認し合っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

3 報告

【佐藤商工政策課長】

県内の常用求人倍率、高等学校卒業者の県内就職率について、資料1に基づき報告

【各部長、教育長】

令和7年度の主な取組実績、令和8年度の取組内容について、資料2に基づき報告

4 事例発表

【企画課長（企画振興部長代理）、健康福祉部長、商工労働部長】

人材確保等で効果や改善が見られた好事例について、資料3に基づき発表

【教育長】

高等学校教育改革促進基金について、資料4に基づき説明

5 意見交換

【商工政策課 大瀬課長補佐】

ありがとうございました。

最後に次第5「意見交換」に移ります。先ほど4つの好事例の説明をいただきました。これらの好事例は、農林畜水産業や建設業など他の分野における現在の取組みや、今後の施策展開においても参考になるものと考えています。こうした視点を踏まえ、まずは農林畜水産分野における取組みや、今後の展開につきましてご意見を伺いたいと思いますが、農林水産部深川部長いかがですか。

【深川農林水産部長】

農林水産部でございます。発言の機会ありがとうございます。農林畜水産分野におきましても、担い手の確保・育成というのが最大のテーマではありますが、加えて省力化・効率化も、働き方という観点から大きなテーマと考えています。先ほど健康福祉部と商工労働部から、AIカメラやロボットなどのDXを活用した取組みの紹介をされました。そうしたDXの観点から申し上げますと、農林畜

水産分野におきましてもＤＸを活用したスマート機器の活用が増えておりますので、少しご紹介させていただきます。

具体的には、農業現場において例えば、ロボットトラクターによる耕うん、畜産では搾乳ロボットや哺乳ロボット、林業ではしいたけ生産時の散水の自動化、水産では養殖漁業における自動給餌などが導入されています。こうしたＤＸ・スマート機器の活用によりまして、生産性向上や働きやすさの向上に努めているところです。特に、ドローンの農薬散布は普及がどんどん進んでおりまして、県内の水稻作付面積は約４万１０００ヘクタールぐらいございますが、その３割の約１万２０００ヘクタールがドローンで農薬散布されています。今後の担い手の減少、高齢化の進展を見据えますと、スマート機器の普及に加えまして、ＤＸを活用する農作業等のサービス事業者の育成・事業拡大も必要だと思っております。積極的に生産現場へスマート機器を導入することで、生産性や働きやすさのさらなる向上を推進して参りたいと思っております。農林水産部からは以上でございます。

【商工政策課 大瀬課長補佐】

ありがとうございました。建設分野におけるご意見も伺いたいと思いますが、奥山土木部長、何かございますか。

【奥山土木部長】

土木部においても、建設現場の生産性向上を図るためＩＣＴ活用工事を推進しております。例えば、これまで人力で行っていた測量をドローンによる測量へと転換し、取得した３次元データを活用して専用機械による土工・掘削を行うなど、現場作業の時間短縮等につなげています。これにより、休暇が取得しやすくなるといった働き方にも影響を与えていると考えております。令和６年度に完了した工事における活用実績としては、２４８件を確認しているところでございます。

それから、職場環境の改善として、快適トイレの設置の取組みを進めております。このトイレは従来の仮設トイレとは異なり、男女がきちんと分かれ、洋式や水洗式にするなど複数の条件を満たす、誰もが安心して衛生的に利用できるトイレとなっております。建設現場の環境改善に大きく寄与すると考えております。さらに、猛暑日における熱中症対策として、現場に設置するミストファン等にかかる費用も設計変更の対象とするなど、現場で働く方々の快適性・安全性の向上に向けた取組みを進めております。データとしてこれは営繕工事になりますが、県発注工事に対し、約２割の現場で快適トイレ設置の実績となっております。以上でございます。

【商工政策課 大瀬課長補佐】

ありがとうございます。他にご意見ご質問、ご紹介したい事項などございませ

んか。例えば、教育委員会におかれても県内定着の取組みなどいろいろ取り組まれていると思いますが、何かございませんか。

【越猪教育長】

ありがとうございます。先ほど高校教育改革について発言の機会をいただきましたが、それに関連しまして情報共有をしたいと思います。高校から大学、そして地元就職へと繋がる人材育成・確保の仕組みを構築することが必要だと考えておりまして、例えば高大接続と地元就職促進の仕組みづくりの先進的な事例として、宮崎県と宮崎大学の工学部が協力して実施しております、宮崎県就職希望枠という学校推薦型入試がございます。

この枠は、卒業後に宮崎県内で就職し、工業人材として活躍する強い意欲を持つ生徒を対象とした入試でございます。さらに特筆すべきは、宮崎県内の90社が結成した日向応援団という組織を構築しまして、この枠で入学した学生に対し、奨学金返済の支援や、インターンシップ参加を条件とした採用試験の一次面接免除といった、手厚い支援を提供しているという点でございます。

本県におきましても、こういう先進的なモデルを参考に、県内の工業高校などの専門高校のトップ層というのは県外の大学に進学していきますが、そのまま進学した県の企業で働いていくというのが1つの構図になっていますので、専門高校のトップ層が県内企業の中核を担うような人材となれば仕事ができるような仕組みづくりを考えていく必要があるのではないかとということで発言をさせていただきました。これは情報共有ということでお願いいたします。

【商工政策課 大瀬課長補佐】

ありがとうございました。いろいろご意見を伺いたいところではございますが、予定の時間が参りましたので、意見交換はここまでとさせていただきたいと思えます。

最後に、今後の進め方について、資料2の12ページにスケジュールを記載しております。各部局におかれましては、今回共有いたしました好事例の改善要因などを参考にいただき、事業のブラッシュアップを図りながら、令和9年度事業の検討にも着手いただきたいと思います。各部局における検討を経て、令和9年度予算編成に向けて動いていくこととなりますが、10月上旬から中旬にかけて、第2回推進本部会議を開催する予定としております。第2回会議では、令和9年度の方針の方向性などについて議論を進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に知事、副知事からご意見をいただきたいと思います。まずは亀崎副知事、よろしくお願いいたします。

【亀崎副知事】

ありがとうございました。資料2の令和7年度の方針実績や令和8年度の方針

内容を見ましても、非常に新規事業や拡充事業も多く掲載されておりますように、いかに人材確保・育成に積極的に取り組んでもらっているかというのがよくわかった内容でした。そして、好事例が4件ありましたが、どれもそれぞれの課題を効果的に改善する事例だったかと思います。皆さんにはこういう事例を参考に横展開を進めていただいきたいということでございます。特に私の中では、熊本電鉄様の取組みが印象的でございます。私も実際ニュースで見ましたが、平日限定運転士の方は、一度阪急電鉄を退職されて、月曜～金曜は熊本勤務で、土日は京都のご家族の元へ戻られるということで、個々の皆様のニーズに応える形で働き方改革を実現している。そして運転士の増加に繋がるという非常に良い事例だと思っております。バスの運転士確保についても非常に喫緊の課題でありまして、こういった事例からますますいいところへ展開していくといいなと思っておりますので、各部の皆様におかれましても、ぜひこういった発想で取り組んでいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。以上です。

【商工政策課 大瀬課長補佐】

ありがとうございました。最後に、木村知事お願いいたします。

【木村知事】

本日は各部から昨年度の実績、今年度の取組み内容、好事例などについてご報告いただきました。顕著な成果が見られた好事例については、しっかり成功要因について教えていただいたところが有難かったと思います。亀崎副知事からもお話がありましており、好事例から得られた気づきを、各分野にしっかりと反映していった欲しいと思っております。事業に組み込んだり、関係団体と連携したりして、現場の人たちが自分たちもやってみようと思えるようなわかりやすい発信の仕方を、全ての部で検討していただきたいと思っております。

2点目として、そうは言ってもまだまだ課題は多くて、特にわかりやすい課題でいけば、新規高卒者の県内就職率が伸び悩んでいるというところがございます。そのためにも、教育委員会等で様々な取組みをしていると越猪教育長からお話をいただきましたが、学校の先生だけに任せていると、さらに負担が増えてしまうこととなります。高校生の就職は学校の進路指導の先生の仕事だと考えずに、農業高校は農林水産部、工業・商業系なら商工労働部など、各部局それぞれがしっかりと教育委員会と連携していただきたいということです。そうした時に、教育委員会と知事部局の連携をさらに深めるというのが本会議の重要なポイントではないでしょうか。2040年にAI・ロボットを利用する人材や現場におけるエッセンシャルワーカーが不足することはデータ上明らかですし、現状でも商工労働部の報告を見ると明らかなのですが、さらにそれが今後深刻化するということを視野に置いて、様々な対応をしていきたいと思っております。

昨日の県議会で、高等学校教育改革促進基金を議決していただきましたが、これはその流れを汲むものですし、おそらく高校生が県外から来るパターンは、高

森高校では一部県外から来ましたけれども、基本的に県内の高校生は県内の方がほとんどですので、県外の大学に進むと、それによって（県外への）就職に繋がっていきます。就職の場は県内にもまだまだたくさんありますので、例えば効果的なのは、高校生であってもインターンシップをやることによって理解が違ってきますし、高校生・中学生のキャリア教育を商工団体や農業団体、建設業関係者といった方々と推進していくことが大事なのではないかと思っております。

産学金官が一体となって、エッセンシャルワーカーを中心にしつつ、AI・ロボットの活用人材というような次世代の人材育成もしっかりと進めていって欲しいと思いますので、今年度そういう視点で各部局の事業を展開していただきます。この推進本部は未来の確かな土台となるものを作りながら、目の前の課題にも対応することが求められています。好事例のさらなる横展開、そして国の動きも踏まえた実効性のある施策を進めるなど、喫緊の課題にも対応しながら、他方では、次世代の人材育成など中長期の取組みも加速させていきたいと思っております。足元と未来の双方を見据えて、各部局の知見・創意工夫をもって、より県庁一丸となって取り組んでいきたいと思っております。次回本部までに、また各部局で政策を磨き上げていただきます。よろしくお願いいたします。

6 閉会

【商工政策課 大瀬課長補佐】

ありがとうございました。

それではこれをもちまして、令和8年度第1回「くまもとで働こう」推進本部会議を終了いたします。今後も各部局や関係機関と連携して、全庁一丸となって県内の人材確保・育成に取り組んで参りますので、ご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。